

2017経営研究集会 分科会を選ぶポイント集

2017経営研究集会のパンフレットは10月上旬、会報誌「どうゆうみやぎ」に同封されます。お手元に届くのに先立って、貴重講演と各分科会のポイント集をお送りします。分科会は6つのなかから「自社の経営課題に沿った分科会を選びます。このポイント集や毎週金曜日に発行するニュースレターを、分科会選びの参考にご活用ください。今年の経営研究集会もパワーアップして準備に臨んでいます。実行委員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。（2017経営研究集会実行委員長 玄地学）

▶基調講演：報告者 エイベックス(株) 加藤明彦氏



「今ある仕事と人はいつか必ずなくなる」

ポイント

- ▶リーマンショック時の売上7割減をどう乗り越え、会社を回復させたのか
- ▶「販路確保」「リスク管理」「人材確保」「事業承継」中小企業に共通の課題を乗り越えるには

トヨタ系列部品メーカーが主たる取引先であるエイベックス。リーマンショックで売上7割減の局面に立つも、市場創造と人材育成に重点をおいた経営に転換し、外的要因に左右されない「克己進む経営」を実現。

今は何に対応していく時代なのか。加藤氏の「今ある仕事は必ずなくなる」「今いる社員はいつまで働けるのか」を予測して経営する視点と実践から学ぶ。

第1分科会：報告者 ミナミ産業(株) 南川勲氏



「新分野にニッチで売って出る」

ポイント

- ▶ニッチトップをめざすには
- ▶ないないづくしを強みに変えるには

自社のコアコンピタンス（事業の核や強み）は何かと悩んでいる方にお勧め。豆腐製造の機械を売っていたミナミ産業。南川氏は豆腐市場の縮小と豆腐店の減少で廃業寸前の会社を承継。ないないづくしでもニッチ戦略で展開が見える！

第2分科会：報告者 (株)九州永田 坂部龍也氏



「選ばれる、働き続けたい会社へ」

ポイント

- ▶人が定着しない要因は何か
- ▶人が定着する企業にどう変えられるか

宮城県内のいたるところに少子高齢化、人材流出によって、技術者の採用難と技術者不足の悩みがあります。働き続けようと思える会社は、大手でなくても有名でなくても作ることができる。ここに確信がもてれば実践に行ける。

第3分科会：報告者 宮城県漁協組合 志津川支所戸倉出張所 後藤清広氏



「100年後の子孫に渡せる環境づくり」

ポイント

- ▶地域ぐるみでブランドをつくるとは
- ▶今どうして環境配慮型企業が注目されるのか、自社にどう影響するのか

南三陸町戸倉のカキ養殖場が国際認証（ASC）を国内で初めて取得。生産者や町は南三陸ブランドとしてカキを国内外に売り出す予定。国際認証取得には周辺の環境状況、労働環境などの審査を経る。自社から始まる環境づくりを考える。

第5分科会：報告者 (株)I.M.Dワークス 川端政子氏



「連携が切り拓く無限の可能性」

ポイント

- ▶なぜいつも、もう一歩というところで成果が出ないのか
- ▶社内の指示系統、業界のタテの連携、もう一つ中小企業が持つべき連携は

連携は何か成果が出てから考えるものではなくて、成果を出すために取り組むもの。

社員同士の連携、新しい価値を生み出すための連携、「連携」「ネットワークづくり」で自社がもっと発展できる可能性を発見する！

第4分科会：報告者 (有)月夜野きのご園 金子崇範氏



「きのこクワガタを一緒に育てる!？」

ポイント

- ▶プロダクトアウトからマーケットインに転換したい
- ▶目標を一緒に乗り越えてくれる社員と社内環境をつくるには

椎茸と希少きのこを生産。生産管理を徹底して菌床ロス率20%以下。菌床の高品質を生かしたクワガタやカブトムシの飼育キットは国内外9万人以上のファンを喜ばせ、年間1億円の事業に成長。

第6分科会：報告者：土地質(株) 橋本 岳社氏 報告者：ゴリラガードギャラン ティ(株) 夏原潤氏



「後継者がぶつかる課題“第二創業”」

ポイント

- ▶事業継承して悩みが深くなる要因は何か
- ▶事業を支えるビジョンがほしい

団塊世代から団塊Jr.への承継が本格化し、「新しい仕事づくり」「事業継承」という第二創業が各社の大きな経営課題となっています。会社存続をかけて「何を」「どのように」実践していくのか。気合・体力だけでは第二創業は乗り越えられない、科学的な根拠と行動力を生み出すための分科会。